

兵庫縣天然記念物候補の3件

森 為 三

(1) 洲本のセンダンの巨樹

兵庫高等学校の室井先生から洲本の近くにセンダンの巨樹があると教えられたので昭和28年夏福良で兵庫県生物学会主催で臨海実習会が行われた後、8月13日室井先生の御案内を受け帰途淡路交通鉄道線千山駅にて下車、北方1kmにある大センダンを視察した。測定器を持っていなかったので紐で測つたのであるが胸囲7m余あつた。既に文部省天然記念物の指定を受けている徳島県板野郡松島村大字鍛冶屋原松島神社境内の大センダンは、根元から1.5m高の周りは5.6m余で洲本の方がずっと大きい。それで県教育委員会社会教育課に申し出で、10月9日柳高校山西先生・洲本高校梶田先生・洲本市教委の方々の御案内を受け正式に調査した。その結果は次のようである。

位置 洲本市下内膳888住吉神社社殿西側
主幹の太さ 根元から1.5m高の周り7.30m
樹高 29.5m

主幹は6mの高さにて東西の二大枝に分れ、約9mの高さにて西枝は更に南方に枝を出している。

枝張り 東方へ16m
西方へ15m
南方へ7m
北方へ3.3m

センダンの巨樹として我国有数のもので、樹勢旺盛枝茂り壮観である。よつて文部省に天然記念物として指定方を申請中である。

(2) 曾根のコバノチヨウセンエノキ

これも室井先生に教えられて、昭和29年12月19日高砂市教委の方々の御案内を受け県教委社会教育課島田主事と調査した。

位置 高砂市曾根区松原町曾根神社境内東端にある大歳神社社殿の東側
主幹の太さ 根元から1.5m高の周り2.27m
樹高 6.89m

主幹は高さ2.27mにて東方と北方とに二大枝を出している。

枝張り 北方へ10.5m
東方へ7.3m
南方へ6m強
西方へ5.75m

コバノチヨウセンエノキはエノキと異なり、葉の上には粗糞で硬い伏毛があり、下面は淡白色を帯ぶ。

果実は球形である。我国に於ては滋賀県、和歌山県から西方の中国・四国・九州に稀に散生し、それから対馬を経て朝鮮に分布している。古代日本と朝鮮と陸続きなりしことを証する貴重な資料である。しかもコバノチヨウセンエノキには巨木はなく本樹が最も太いと思考せられるので県の天然記念物に指定したいと考えている。

(3) 三椒の麻蔦櫻(シロヒガンの系統)

豊岡高等学校山本先生の実地調査と指示により、三椒村村長から申請を受け本年4月12日県教委社会教育課島田主事とともに山本先生、三椒村村長の御案内で調査した。

位置 城崎郡竹野村字椒姫園神社境内
主幹の太さ 根元からの1.5m高の周り6.2m
樹高 10.37m

主幹は3.10mの高さにて東西の二大枝に分れ各々また南北に枝を出している。老樹にして東側は腐朽し中に大なる空洞がある。主幹を基として円形に石垣を繞らし、50cm位盛土を施しているので根廻りは測定することは出来なかつた。

枝張り 南方へ9.4m
北方へ7.6m
東方へ6.2m
西方へ5.9m

花は咲きたては稍紅色を帯び後に白色となる。花径約20mm。花梗12mm内外。雄蕊約20本、雌蕊の花柱の下部に毛がある。萼は壺状で下部膨れ花梗とともに毛が密生しているので花色と照合しシロヒガンと思われる。花期は4月上旬、花序は3乃至5花をつけるが3花のものが普通である。養父郡口大屋村樽見の仙桜は根廻り8mで文部省の天然記念物に指定されているので本樹も指定の価値ありと考え県の天然記念物に指定する予定である。また本樹を麻蔦櫻と称するのは麻を蒔く頃に開花するからとのことである。

終りにこれらの調査に際し御教示御配慮に預つた室井・山本・山西・梶田の諸先生及び洲本及び高砂両市の市教委の方々及び三椒村村長及び同村役場の方々に深甚の謝意を表する。

洲本のセンダンの巨樹追記

東京大学教授本田正次博士が兵庫県生物学会の招き

(p.1へ)

(p. 3から)

により洲本で開催の理科校外指導研究会に講師として出席されたるにより、同博士は文部省の天然記念物調査委員であられるので洲本のセンダンの巨樹を見て頂く好機を得た。本夏8月29日研究会で御講演の後、洲本市教委武川社会教育課長、灘高校川崎先生、柳学園山西先生と私とで案内し、雨中を視察して頂いた。本田博士は私が上記に述べた徳島県の鍛冶屋原のセンダ

ンの巨樹は枯損したので指定を解除し、その近くの幼稚園内に同じ位の太さのセンダンがあつたので指定したと、また先年中井猛之進博士は山口県のセンダンを調査し指定しているが何れも本樹より遙かに細くしたがつて本樹はセンダンの巨樹として日本一のものならん、文化財保護委員会にかけるとのことであつたので追記する。